

[049_2008]第49回附属図書館貴重文物展示：中山森彦と仙厓展

後小路，雅弘
九州大学大学院人文科学研究院

中山，喜一郎
福岡市博物館

黒田，泰三
出光美術館

川上，貴子
九州大学大学院人文科学研究院

<https://doi.org/10.15017/13538>

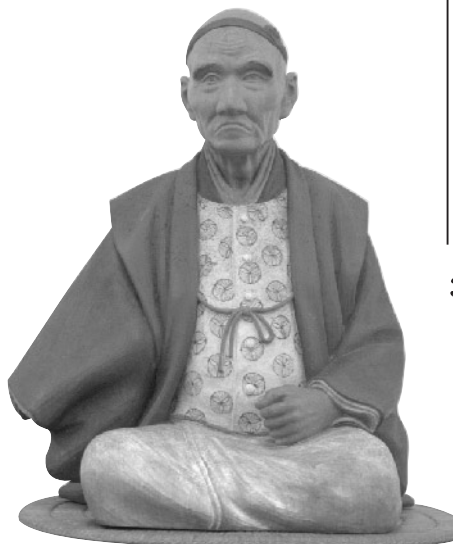
出版情報：展覧資料，2008-05-08. Kyushu University Library
バージョン：
権利関係：

【仙厓年譜】

※地名は現在のもの、月は太陰暦とした。
 ※本年譜は中山喜二朗編『福岡市美術館叢書 仙厓その生涯と芸術』(福岡美術館協会発行平成四年二月)等を参考に石水垂季(文学部美学・美術史研究室)がまとめた。

西暦	和暦	年齢	
一七五〇	寛永三年	一	岐阜県武儀郡武芸川町高野に農民・井藤甚八の次男として生まれる。(三宅酒壺洞説)
一七六〇	宝暦十年	一一	美濃市澁町の清泰寺において、清泰寺第十世空印円虚のもとで得度。諱を義梵とする。
一七六八	明和五年	一九	初行脚。横浜市南区永田町の東輝寺の月船禪慧に参す。
一七八一	天明元年	三二	六月、月船禪慧没。 一時美濃に戻り、清泰寺の住職に推されるも武家の檀越(布施を行う檀家)の反対で実現せずと伝承あり。 東輝寺を辞し、諸国を行脚して後東輝寺に戻る。
一七八七	天明七年	三八	京都・近江地方滞在中に兄弟子・太室玄昭より九州来遊を促される。
一七八八	天明八年	三九	春、九州へ出発。聖福寺第一二二世盤谷紹適に相見。 四月、福岡藩に盤谷紹適「仙厓和尚御国住居願」を提出。
一七八九	寛政元年	四〇	聖福寺第一二三世となる。
一七九〇	寛政二年	四一	五月頃、仙厓転位垂示式(雲水から正式に住職となるための儀式)のため上京。
一七九四	寛政六年	四五	十一月、聖福寺伽藍大破のため、藩に銀十二貫目拝借願を出す。
一七九八	寛政十年	四九	本山妙心寺より瑞世之儀(紫衣を授与され本山住職の資格を得る儀式)勸奨あるも断る。
一八〇二	享和二年	五三	十月、妙心寺より再度瑞世之儀勸奨。翌年病を理由に断る。

西暦	和暦	年齢	
一八一二	文化九年	六三	一月、虚白院に移る。
一八一三	文化十年	六四	九月、藩に住職退隱願を提出 十月、湛元等夷へ法席(こゝでは住職位)を譲り、閑栖。
一八一五	文化十二年	六六	冬、「寒山拾得 豊干凶」賛に「厓画無法」と記す
一八一七	文化十四年	六八	七月、幻住庵第十世惟林宗克没。 以後三年あまり仙厓幻住庵に仮住。 性山宗已を後任に迎え虚白院に戻る。
一八一八	文化十五年	六九	七月、絶筆の碑を建ててが揮毫の依頼は依然多く、絶筆ならず。
一八二二	文政五年	七三	妙心寺より再々度瑞世之儀勸奨。断る。
一八二五	文政八年	七六	湛元等夷が藩より退位を命じられる。 仙厓聖福寺第一二五世に再任。
一八二七	文政十年	七八	十月、仙厓没。
一八三三	天保三年	八四	仁孝天皇より「普門円通禅師」の諡号を賜う。



30 山崎朝雲作 仙厓和尚坐像
 昭和15年(1940) 一軀 木彫彩色一木造 像高 30.2cm

本作品は、昭和10年(1935)、中山森彦博士が仙厓の百年忌にあわせて、山崎朝雲(1867～1954)に制作依頼したもの。仙厓像制作を熟望する博士の様子は、朝雲宛の手紙よりうかがえるが、その完成には5年を要している。朝雲は亀山上皇像で知られる博多出身の彫刻家であり、本作品の仙厓像には、高僧の高潔、峻厳な人格の深みが表現されている。博多仏師の流れを汲む、伝統的な木彫の手法で、近代的な写実性を追求した朝雲の特長をよく伝えている。